

# 7月の豪雨は150年に1回規模の大雨だった!?

向町観測所で日雨量データが存在する明治38年以降の記録。7月25日の雨量は特別でした。

S49.7.31(1974)	296
R06.7.25(2024)	253
S21.8.09(1946)	216
H30.8.05(2018)	207
S44.8.07(1969)	203
S42.7.28(1967)	175
M43.8.13(1910)	150
R04.6.27(2022)	149
H15.8.25(1940)	136
H27.9.10(2015)	132

確率年	確率雨量
200年	271.8mm
100年	238.0mm
70年	221.4mm
50年	206.2mm
30年	184.0mm
20年	167.0mm
10年	139.3mm
5年	112.8mm

確率雨量から見ても、7月の豪雨は約150年に1回起こるレベルの豪雨だったことが確認されます。

確率雨量は、様々な計画のもととなる数値です。例えば、河川の堤防高等を決めるには、河川の規模によりますが、10年～200年の確率雨量が用いられます。

また、農業用水路の断面は、10年確率雨量等が用いられます。

※ 山形県河川整備計画資料集参照



上満沢：土砂崩れと用水路閉塞



## 多面的機能支払交付金事業 最上町広域協定 活動通信 No.11

7月9日と7月25日、町では記録的な大雨に見舞われ、農業に関わる農地への土砂流入、農地崩れ、水路崩落、水路閉塞、農道崩落など至る所で数多くの被害が発生しました。

被災直後から農業者+地域住民が土日を問わず用水確保や農道復旧などの第1次の応急復旧を行い、収穫後に第2次の復旧を各集落で計画しています。

多面的事業の各集落は、今回のような大規模災害にあっても、その組織力と事業交付金を最大限活用して、復旧の前線に立って活動しています。



野頭：農地崩落

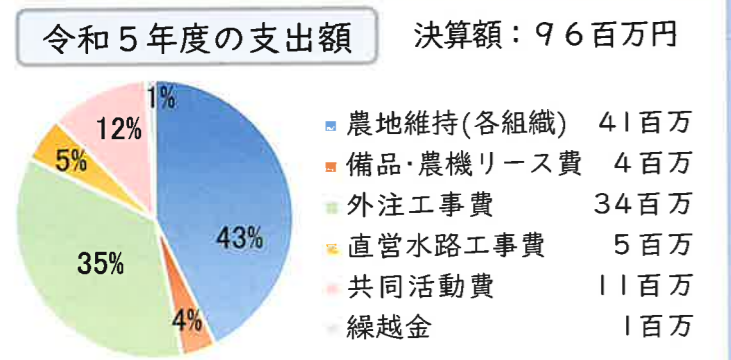
### 最上町の豪雨と温暖化 向町アメダス 昭和51年から48年間の1～7位

48年間の記録にもかかわらず、降水量、高温日とも、ここ10年間で急激に多くなっています。

要素名/順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
日降水量 (mm)	253.0 R6.7.25	207.0 H30.8.5	164.5 H30.8.31	149.0 R4.6.27	132.0 H27.9.10	122.0 R6.7.9	122.0 H23.6.23
1時間降水量 (mm)	63.0 R6.7.25	61.0 R6.7.9	56.0 H30.8.5	51.0 H30.8.31	47.0 H27.9.10	46.5 H30.8.15	42.0 H12.8.5
月降水量 (mm)	882.0 R6/7	674.0 H30/8	603.5 H25/7	561.0 R2/7	474.0 H3/7	447.0 H10/8	441.5 R4/8
年降水量 (mm)	2,488.5 H25	2,183.0 H22	2,144.0 R4	2,104.0 H14	2,071.0 H3	2,036.5 H30	2,015.0 R2
日最高気温 (°C)	36.0 H19.8.14	35.9 R3.7.18	35.9 H22.8.6	35.8 H22.8.5	35.7 R3.8.5	35.7 R3.7.20	35.7 S61.7.31
日最低気温の 高い方から (°C)	25.8 R5/8/10	25.3 R5.8.16	25.2 H23.8.11	25.1 R5.8.9	25.1 R5.8.8	25.0 H6.8.4	24.9 R5.8.15
月平均気温 (°C)	27.2 R5/8	26.2 R6/8	25.9 H22/8	25.7 S60/8	25.4 H6/8	25.1 H24/8	25.0 H11/8
年平均気温 (°C)	12.0 R5	11.2 R2	11.2 H2	11.0 H16	10.9 R3	10.8 R1	10.8 H28

48年間の平均気温は10.2度

### 最上町広域協定：令和5年度の決算と6年度の計画



- ※ 共同活動費内訳
- ① 会議・研修時日当 0.2百万
  - ② 運営委員会役員報酬、事務局人件費 9.2百万
  - ③ 傷害保険、通信料、消耗品、印刷費、啓発資料等 1.2百万

- 令和6年度の活動計画 予算額：88百万円
- ① 農地維持：各組織で行う草刈りや泥上げ 37百万円  
(農地維持予算で支出する工事費含む)
  - ② 農業機械・資材、事務所備品等費用 4百万円
  - ③ 水路工事やゲート補修などの外注費等 31百万円
    - 農道の舗装工事 (法田中、法田下、志茂、若宮、月楯、向町)
    - コンクリート側溝への更新工事 (沢原、月楯)
    - 水路・農道施設補修、災害復旧費
  - ④ 直営施工水路更新工事 (中満沢他) 5百万円
  - ⑤ 共同活動費 (人件費・事務経費等) 11百万円

発行日/令和六年十月二十一日 発行責任者/最上町広域協定 運営委員会理事長 渡邊英俊

### 豪雨と災害発生時の多面的事業各組織の役割

#### ① 豪雨前後の見回り・点検、② 被災状況確認、③ 復旧計画打合せ

**豪雨前**：豪雨が予想される場合は、多面事業の役員を中心に、水門や管理ゲートの流量調整、水路の点検を行い、水路崩れや田んぼへ大量の水が入らないようにします。

**豪雨後**：天候が落ち着いてから、役員を中心に区域内の水路・農道・農用地の被災状況を確認します。被災箇所があった場合には、被災状況を記録し、今後の復旧計画を立てます。(自分たちでどう復旧するか、国の災害復旧事業を活用できるかなど)



#### ④ 農業者と地域住民による ④ 応急復旧活動

**復旧体制**：被災した水路や農道を使用している耕作者と多面事業役員、耕作者以外の地域住民が協力して復旧活動を行っています。

耕作者の減少により、生活用水として利用する水路などの復旧には、農家・非農家を問わず地域住民の参加が不可欠です。

**復旧経費**：中規模程度の災害復旧は、多面事業の通常予算で、復旧に携わる作業員の日当、重機のリース料・燃料代、資材費などを賄っています。今回のような大規模災害時は、金額が大きくなる重機のリース料は町災害復旧費から支出し、日当や資材費等は、広域協定内で融通し合い支払っています。



#### 災害に強いコンクリート水路に更新

**長寿命化工事**：広域協定では、土側溝の水路をコンクリート水路へ更新を図る工事を積極的に、計画的に進めています。豪雨時、土側溝は一番被災されやすく影響も大きいことから、水路更新は急務です。



しかしながら、山形県の場合、1路線当たりの工事費は500万円以内で、毎年の交付率も70%以下と工事進捗が厳しい状況です。町をとおして、中山間地の水路更新の重要性を訴えています。

# 災害が起きてすぐ 多面事業の各集落は 復旧に向けて動き出しました

広域協定事務局に、9月末までに急ぎ報告 のあった集落の、災害対応活動内容と復旧作業写真

【災害対応活動費 340万円、延復旧作業人数 470人】

人件費 257万円、機械リース・借上料 43万円、資材費 28万円、その他燃料代等 12万円

その他、役場からは重機リース等 344万円を別途支出

## 用水・通行確保、復旧作業



## 被災状況



被災状況・復旧後の写真ともほんの一部です。この災害に際し、9月末時点で復旧作業が特に多い集落は、作業日報を45枚ほど提出があり、延作業時間も150時間を超えています。

## 仮復旧・本復旧完了

今後、収穫作業後、来年春の農作業開始まで、多くの組織では、田に流入した土砂撤去や畦畔・法面復旧、水路復旧などの作業が行われます。



## 役場農林振興課からのコメント

7月に発生した2度に及ぶ記録的な豪雨災害は、近年に例がなく、被害も甚大な状況となっております。農地や農業用施設を中心とした地域の災害復旧作業に従事されている皆様については、大変ご苦勞されている事と存じます。このような状況の中、異常気象後の見回りを行い、被災箇所を早期に復旧するなど、多面的機能支払交付金交付金事業の取組みは災害復旧の迅速化に大変重要なものと考えております。

町では、多面的機能支払交付金、国県の事業を有効に活用し、皆様と共に今回の災害復旧に取り組んでまいります。